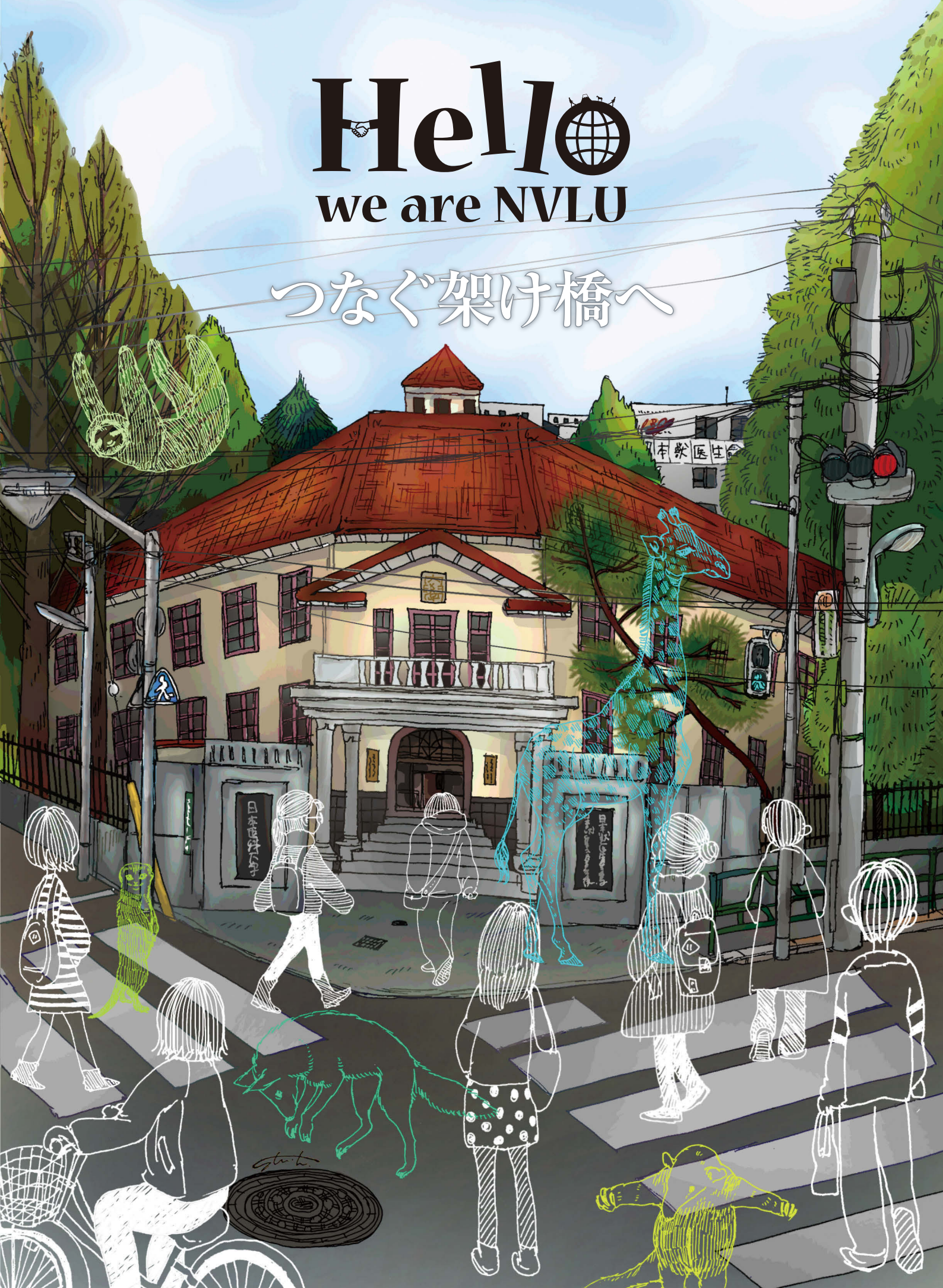


Hello

we are NVLU

つなぐ架け橋へ





P.4 特集・大学報リニューアル

- ・学長メッセージ
- ・IR推進委員会委員長メッセージ
- ・提案学生 獣医学科4年次 黒田祥さんメッセージ

P.8 連載・スペシャリストへの道

- ・獣医学科6年次 高木慎介さん
- ・動物科学科4年次 諏訪ひなのさん
- ・一般財団法人日本食品分析センター 高橋菜摘さん（2016年動物科学科卒）
- ・東京都農業共済組合 獣医師 北村知也さん（2001年獣医学科卒）

P.12 [教育現場から] 座談会 ～富士アニマルファーム実習を語ってみた～

P.14 突撃！第3回医獣祭 医食獣～みんなおいでよ 医獣の森～

P.18 データで読み解くニチジュウ

P.20 [News Topics] ニチジュウCAMPUS NOW

CONTENTS

Hello
we are NVLU

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。未来につなげるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければならず、本大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを一言で表すと「Hello」。獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界にHelloと呼びかける必要があるのです。

特集・大学報リニューアル ご挨拶



ALL NVLU（ニチジュウ）で Road to 150thの道程を楽しむ

日本獣医生命科学大学
学長 阿久澤 良造

近い将来、AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが、変化すると予想されています。社会を担う人材の育成を使命とする大学としては、常に未来を見据えた計画が必要であると考えます。

2016年、学長就任以来本学の中長期計画の策定に取り組み2018年度より、計画実行の第一歩を踏み出しました。本年度上期（4～9月）の事業進捗は、自己評価委員会の評価によると、一部計画変更の検討が必要であるものの、概ね目標達成にむけ順調に推移しているところです。今後も、一日、一年を大切に2031年（創立150周年）へのロードマップに沿った施策、計画を丁寧に実行し、PDCAのサイクルを回す体制を強化して、多様な資源を有効に図りつつ大学運営をしてまいります。

そこで、主な取り組みとして「教育、研究、管理運営、社会貢献、産官学連携、動物医療センター」などを中心とした第1期中期計画を、改組した事務組織を推進軸とした教職協働、ケースによっては、学生、卒業生にも協力いただき推進しております。

事業計画は、多岐にわたりますが、概要を簡単に紹介します。

まず、「教育でつなぐミライ」として、特色ある教育と学生満足度の高い教育の実施にあたり、学校法人日本医科大学ICT推進センターとの連携による学修支援システムを利用するなどによって各学科における特色ある質の高い教育へと推進されています。

「研究でつなぐミライ」として、本学における研究ブランドとして、One Healthに貢献する「生命、食、環境」を繋ぐ研究拠点形成、つまり、人と動物が安心できる暮らしを目指しての事業を推進しているところです。

Concept ～大学報リニューアル～

新大学報「Hello, we are NVLU^(ニチジュウ)」は、学生や保護者、教職員のニチジュウ愛の醸成を図り大学の活性化につなげ、卒業生にも関心をもち続けていただき、卒後のネットワークを構築することを目的としています。

中長期計画にて定めたミッション・ステートメント「Connect with the Future ～動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぎ、獣医・生命科学の情報発信拠点～」に基づき、多くのステークホルダーを「つなぐ」大学報にリニューアルします。

「学生支援でつなぐミライ」として、アットホームで豊かな心を培う学修環境を整えるために学生からの要望や学修行動調査に基づいたサービス体制の構築に取り組んでいます。

「社会貢献・産官学連携でつなぐミライ」として、従前からの本学野生動物教育研究機構による群馬県や東京動物園協会などとの共同事業を推進しています。また、新たに「釧路丹頂農業協同組合」との連携、さらに、ニチジュウブランド商品の開発を目指した事業を「北海道チクレングループ」と進めています。その他、民との連携、貢献として本学の多様な資源が、近隣市民の皆様とを繋ぐ有意義な交流の場にできればと考えております。

「動物医療センターでつなぐミライ」として、臨床教育の充実、獣医療を発展させ、社会貢献にもつながります。臨床教育の充実にむけ活発に活動しております。また、厳しい状況のなか医療センター関係者の理解のもと、土曜日の診療を開始し、社会の要請に応える努力をしております。

また、「管理運営でつなぐミライ」として、大学関係者が愛と誇りを持てる大学にしようと進めています。老朽化施設の安全性確保は、必要不可欠の大事業です。その一つである危険な牛舎（実習施設）の建替え工事が進んでおります。なお、残された老朽化施設に係る第一及び第二校地の土地、建物の再開発、再利用の計画策定への作業も開始し、本学の発展に最も機能的かつ効率的に資することができる形での土地、建物へと整備できるよう検討をすすめて参ります。

最後になりましたが、今回、上記の事業計画の進捗状況や入試、その他大学全般についての現状を正確に伝え、関心を持っていただく手段として、大学報のリニューアルに取り組みました。学生、教職員、保護者、卒業生の強いネットワークの構築のための有効な手段として大学報を位置づけ、継続的に本大学の現状と将来への展望に関心を持ってご理解いただければと思います。そしてALL NVLU（ニチジュウ）でRoad to 150thの道程を楽しみ、着実に成果を上げながら、進んでいければと考えます。

「ニチジュウ」に繋がる皆様に届き、皆様からの声が届くように大学報の名称を、「Hello, we are NVLU（ニチジュウ）」としました。宜しくご協力をお願い致します。

◆ニチジュウミライ図（中長期計画）

【ニチジュウミライ図プロジェクト】

日本獣医生命科学大学は、大学の改革・改善への取り組みを行うため、その設計図と言える「グランドデザイン」である「長期ビジョン」及び「中期計画」の策定を昨年度行いました。この取り組みは、学長のリーダーシップのもと、大学の将来構想として位置づけ、多くの教職員や学生（必要によっては卒業生等も含む）が参画する仕組みを構築し全学的取組みとし合意形成を図り、大学の見える化・透明化を促進することも目的の一つとしており、現在はこの計画の実行を始めています。

このプロジェクトマークは人と動物がつながり、架け橋を渡るイメージとなっており、教員と学生と一緒に原案を作成したものです。

これに、意見交換会や学長の意見により修正が加えられ、学生及び教職員による投票結果を受け、学長が最終的にリメイクした「ニチジュウミライ図 プロジェクトマーク」です。



原案者(獣医保健看護学科応用部門 古村講師と学生)



「教育」でつなぐミライ
「研究」でつなぐミライ
「学生支援」でつなぐミライ
「管理運営」でつなぐミライ
「動物医療センター」でつなぐミライ
「社会貢献・産官学連携」でつなぐミライ

ミッション・ステートメント「Connect with the Future」は、副題の「動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぎ、獣医・生命科学の情報発信拠点」から学長が決定しました。

この副題も教職員の提案により決定しており、中長期計画は多くの構成員が関わり策定しました。



副題原案者(動物科学科 藤平教授)

ニチジュウミライ図（中長期計画）についての詳細はこちら→



大学報のリニューアルについて

I R 推進委員会 委員長 羽山 伸一

本学は、2031年の創立150周年をゴールとして、学長を中心に教職員協働で中長期計画を策定いたしました。これを未来の本学への道しるべとするため、「ニチジュウミライ図」と名付け、全学的な共通の目標像としています。

このニチジュウミライ図と連動し、本学のブランド力や社会での認知度を高めるため、これまでの広報業務の見直しを行っています。このたび、その一環として大学報をリニューアルすることといたしました。

これまでの大学報は、学内外のさまざまな方々を読者と想定して情報発信を行ってまいりました。今後は、本学の学生、教職員、保護者、卒業生のすべての皆様とニチジュウ愛を醸成することを編集方針として、中長期計画で掲げたミッション・ステートメント「Connect with the Future ～動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぐ、獣医・生命科学の情報発信拠点～」を実現するために、本学のステークホルダーを「つなぐ」大学報にしたいと思います。

大学報のリニューアルにあたり、誌名を全学的に公募して決定いたしました。また、学生目線や学生企画を取り入れるために、学生広報委員の募集なども検討しています。さらに、受験生を含めた本学関係者がどなたでも大学報をご覧になれるよう、本学ホームページからPDF版を配信し、アーカイブの閲覧も可能にいたします。

今後、本学に関わる皆様には、新たな大学報への情報や原稿の提供、取材への対応などを依頼することとなりますが、どうか趣旨をご理解のうえ、ご協力いただけますよう、お願いいたします。



11月15日学長より、表彰状を授与されました。

誌名 “Hello, we are NVLU” にかける想い

獣医学部獣医学科4年次 黒田 祥

今回、誌名を考えるにあたって大学全体のことを一度は考えてみたのですが僕一人では想像できるものではなかったので、身近なところから考えていくことにしました。

入学するまでは大学に入ることが人生の中での大きい目標だったので、入学してからはしばらくの間、達成感と共にこれからの目標を見失っていました。そんな中で大学内での友人との交流、仲良くなった先生との話から学ぶ生き方、キャリア支援の親身な協力、学外での日獣関係者との繋がりが僕自身に影響を与え、学問的にも精神的にも成長してきたと感じています。

日本獣医生命科学大学は小さな私立大学です。小さな大学だからこそ身近なところから考えていくことでこの答にたどり着けたのかなと思います。しかし大学の内面が密であるからこそ、全体から考えると見えなかったのです。

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。未来につなげるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければならず、本大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを一言で表すと「Hello」。

helloは1984年に初代マッキントッシュが初めて表示した文字です。当時、アップル創業者のスティーブ・ジョブズはこれに強くこだわりました、「映画のせいでパソコンは怖いものとして一般人に認識されている、そのイメージを覆すにはhelloと言わせないとダメだ。」。そしてマッキントッシュにこう言わせました、「Hello, I'm Macintosh」。

残念ながら、まだこの日本においての動物に対する意識は他国と比べて低いところがあります。それは動物とヒトとの関係性にまだ希薄さがあるせいだと僕は考えます。その希薄さを無くす為に、獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界にHelloと呼びかける必要があるのです。

◆IR推進委員会について

IR推進委員会は、本学の客観的状況を収集・分析し、学内外に対して必要な情報を提供することを目的に、本年6月に新たに設置された委員会です。

本委員会では、様々な情報の収集・分析の他、大学内外への情報の提供及び大学広報に関する事項を行っています。

(具体的な審議内容)

- ・大学運営に関する情報収集のための調査等
- ・大学報の編集及び発行
- ・プレスリリースの配信
- ・大学ポर्टレートの情報発信の検討
- ・大学ホームページの更新状況の報告

新しい大学報は、年3回（4月、8月、12月）発行を基本とし、「学生目線」「学生企画」を取り入れます。また、将来学生広報委員を募集することも検討しています。

【2018年度 IR推進委員会】

委員長：羽山教授※

副委員長：近江教授※

委員：田崎教授、松石教授、
柿沼教授、小山教授、
左向教授、小澤教授、
渋谷教授、野瀬講師※
高橋学長室・企画調査課長※

事務局：学長室・企画調査課（大沼、服部、上野）※
（※大学報編集委員）



◆映画「Steve Jobs（スティーブ・ジョブズ）」から生まれたHello

映画『スティーブ・ジョブズ』（原題:Steve Jobs）は、ウォルター・アイザックソンによるベストセラー『スティーブ・ジョブズ』を原案に、アーロン・ソーキン脚本、ダニー・ボイル監督のもと制作された伝記映画で、2015年にアメリカ、2016年2月に日本で公開されています。本作は第88回アカデミー賞ノミネート、第73回ゴールデングローブ賞を受賞しました。スティーブ・ジョブズの人生はジョシュア・マイケル・ターン監督のもと、2013年にも映画化されています。

黒田さんはこの映画を好んで見ており、そして今回誌名募集通知を受けてコレだ!と思いついたそうです。

◆もっと身近な大学報に！

今後の大学報に期待することを尋ねると「もっとかわいいうちの大学報にしてほしい」とのこと。

ポップで可愛く学生が身近に感じられる大学報にするため、ニチジュウ内の「知らない」「わからない」状況を改善し、関係者同士のコミュニケーションツールとなるよう作成していきたいと思っています。

（学長室・企画調査課）



大好きな鳥のために、人生を捧げたい。

横浜小鳥の病院 鳥類専門臨床獣医師(内定) 高木 慎介

——鳥類専門の臨床獣医師を目指したのはいつ頃からですか？

幼い頃から鳥が大好きで、そんな大好きな鳥が病気になるって、診られる病院がありませんでした。獣医保健看護学科1年生の時から鳥に関わる仕事に就きたいと考えてはいましたが、そんな時、4年生の先輩から鳥専門の病院が横浜にあると聞きました。その病院を実際に訪れて、自分自身が獣医師になって多くの鳥を助けたいと思い、卒業後改めて獣医学科に入学しました。

——鳥類専門臨床獣医師になるために行ったこと、努力したことなど教えてください。

鳥を専門とする動物病院への実習へ13カ所、何百日と積極的に行きました。学年が上がるにつれて分かることも多くなり、楽しいです。実習だけでなく、鳥類獣医療を専門とする学会にも参加し、刺激的に学んでいます。

——鳥類獣医療に興味を持っている人はどうやって学べるのでしょうか？

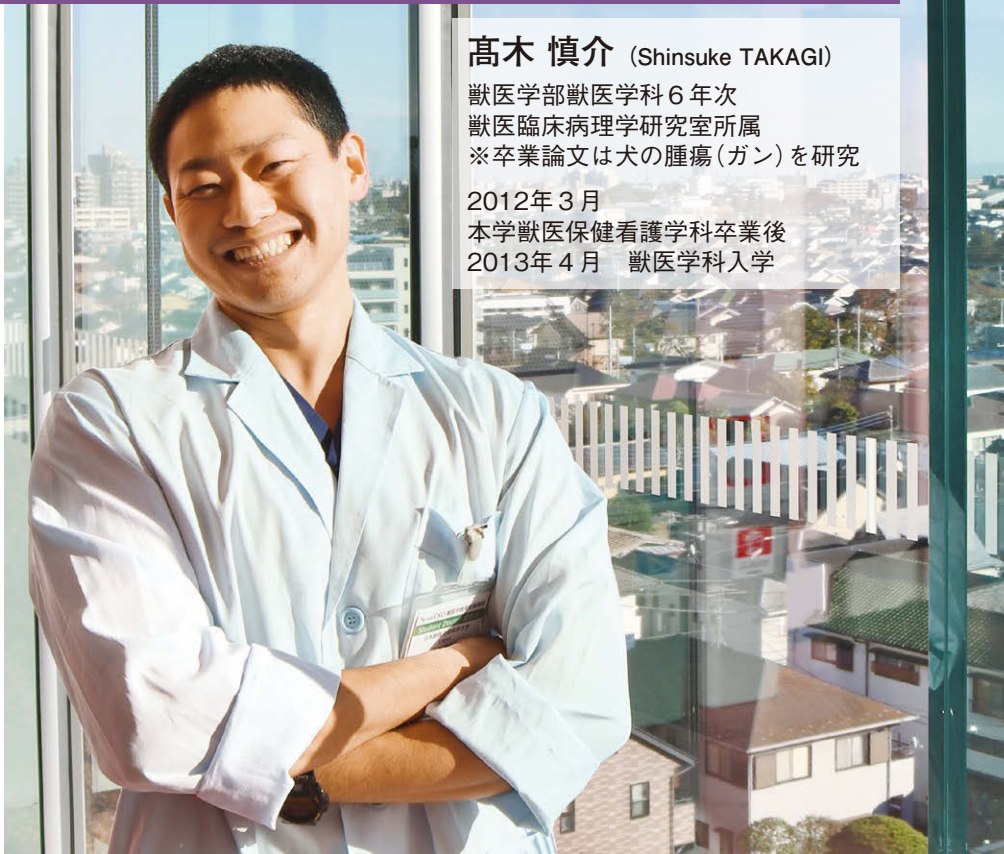
やはり一般的には犬猫志望、大動物志望が多いです。鳥を含めたエキゾチックアニマル志望は少ないですが、増えてはきました。志望する人が少ないこともあってか、大学ではエキゾチックアニマルについてはほとんど授業がないので、病院に足を運び、実地で学ぶしかありません。しかし近年では、臨床獣医師がエキゾチックアニマルの教科書を執筆したり、また「エキゾチック臨床」という雑誌も創刊されたり、学ぶ機会や環境は徐々に増えてきました。

——そんな後輩たちのために、高木さん主催で勉強会(写真右下)を開催しているとお聞きました。

今は国家試験前のためやっていませんが、直近では9月に開きました。3~4年次の鳥類を学びたい学生を中心に、講義を行いました。5人ほどでしたが、口コミや鳥類の学会で会った後輩が集まってくれました。

——高木さんの今後の目標を教えてください。

地元の大阪でゆくゆくは開業したいと考えています。関東には現在約20の鳥専門動物病院があり、昔と比べると増えてきています。しかし関西は少なく、鳥類獣医療のレベルもまだまだ低いです。関西の鳥類獣医療のレベルを上げ、近隣病院と一緒に盛り上げていきたいです。そして、本来十



高木 慎介 (Shinsuke TAKAGI)
獣医学部獣医学科6年次
獣医臨床病理学研究室所属
※卒業論文は犬の腫瘍(ガン)を研究

2012年3月
本学獣医保健看護学科卒業後
2013年4月 獣医学科入学

数年と長い寿命の鳥たちが飼い主とともに、長く幸せな時間を過ごせるように人生を捧げたいです。

——最後に、学生の皆さんへメッセージをお願いします！

鳥のことを学びたい、そんな同志がいればとても嬉しいです。勇気を出して、鳥類専門の動物病院に学びに行くことをオススメします。もちろんはじめはわからないことだらけです(笑)。でも、わからないことを一生懸命調べて勉強して分かるように、そして獣医師や飼い主へ伝えることができるようになっていくのはとても嬉しいです。昔は、鳥は触ったら死ぬなどと言われていましたが、今の鳥類獣医療では手術や輸血もできます。きっと想像以上にたくさんの刺激を受けて、鳥を好きなだけではなく、獣医師としてこれがやりたい！という気持ちが強くなりますよ。

獣医師国家試験も大変だと思いますが、本日はありがとうございました。
これからのご活躍応援しています。



▲鳥専門病院での実習写真



▲勉強会での講義

THE ROAD TO SPECIALIST

スペシャリストへの道

～学生編～

本学の教育理念は

「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」。

獣医、獣医保健看護、動物、食品に関する専門職(スペシャリスト)

の道を歩むことを目指す学生の活動と既に歩んでいる卒業生の活躍を紹介します。

伝える力が自分の武器になりました。

諏訪 ひなの (Hinano SUWA)
応用生命科学部動物科学科4年次
動物生殖学教室所属

農林水産省畜産系技術職員(内定) 諏訪 ひなの

——諏訪さんは農林水産省畜産系技術職員の内定をいただいています。目指したきっかけはなんですか？

両親が公務員ということもあり、もともと公務員に興味がありました。また、以前から学んできたことを仕事に活かせるようなことをしたいと強く考えており、大学2年生の冬に農林水産省の畜産職について知ったとき、これだ！と思いました。それからは実際に大学3年の夏、北海道の動物検疫所にインターンシップに行きました。このインターンシップに参加したのは、ニュージーランド実習に行って、海外とのやりとりもあって面白そうだったからです。それから講演会や説明会に積極的に参加したりして、より深く仕事を知っていくにつれ、農林水産省の職員として働きたいという思いが強くなっていきました。——公務員試験対策はどのようにしていたのですか？

まずは一次試験を通過しなければならなかったので、とにかく試験勉強していました。研究室の活動等で勉強時間の確保は大変でしたが、スケジュールを綿密に立てて毎日実践しました。面接に向けては、自分の気持ちをしっかり伝える練習をしました。——二次試験は面接ですが、面接対策はしていましたか？

併願で出身地の栃木県も受けていたの

で、栃木県の試験が終わってから農林水産省の面接対策を始めました。県ではなく国という規模で考えて対策を練ったのは1か月ないくらいです。

キャリア相談に行ったところ、一緒に働きたいと思われるよう、自分の想いをしっかりと伝える練習をしたほうが良いといわれ、ひたすら練習しました。実際に面接中に「説明がわかりやすい」と面接官の方におっしゃっていただけたので、伝える力は大事だと思いましたし、自分の武器になったと感じました。

——キャリア相談を頻繁に利用していたんですね。

はい、一次試験の合格発表が終わってから、農林水産省の面接前まで、ほぼ毎日練習に行っていました。学生支援課の皆さんには大変お世話になりました。

——大学で学んでいて、諏訪さんが本学の魅力を感じた部分を教えてください。

専門性の高い授業がたくさんあり、畜産についてのあらゆる分野の学問について学べることは魅力の一つだと思っています。動物科学科では3年次から研究室に所属するのですが、そこでより高度な技術や知識が身に付きますし、公務員試験の専門試験の勉強に大いに役立ったと実感しています。

——専門試験の勉強に役立ったというの

は、具体的にどんなことですか？

公務員試験対策をしている時、参考書を見て調べていたんです。あとでノートを見返したら全部ちゃんと習っていました(笑) 授業を受けているときは意識していませんでしたが…(笑)

——最後に、同じ道を志す皆さんにメッセージをお願いします。

とにかく試験を通過しないと始まらないので、一次試験は頑張ってください。そのあとは、ここで働きたいという自分の強い想いをしっかり伝えることができるよう、日頃から意識して生活するとよいと思います。頑張ってください！

ありがとうございました。
これからもがんばってください！
ご活躍を期待しています。



▲諏訪さんおすすめのキャリア相談
(3名のスタッフ全員とお話したそうです。)

THE ROAD TO SPECIALIST スペシャリストへの道 ～卒業生編～

——高橋さんは2016年3月に本学動物科学科をご卒業されています。所属研究室について教えてください。

実験動物学教室に所属し、室長を務めながら獣医学科の比較動物医学研究室でマウスの悪心ストレスによる脳内での反応を研究していました。3～4年次はずっと研究室にこもっていました（笑）

——高橋さんは3年生の冬に実験動物一級技術者を取得しているんですね。

はい、頑張って取得しました。夏はテキストを何周もしてひらすら学科の勉強をしていましたね。今の仕事内容とは直接関係はしていませんが（笑）。それだけが自分の強みではないので、資格にこだわらず別の面で活かせる部分があるなら活かしたいと今の職に就いています。

——センターにお勤めされて3年目になりますが、仕事内容を教えてください。

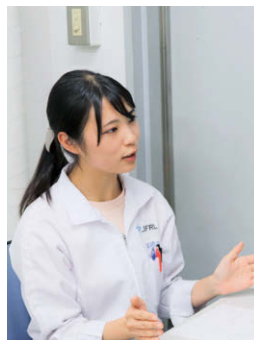
入職後、東京本部微生物部微生物試験課に配属され、微生物項目の分析を行っています。対象は食品や食品の原料だけでなく、得体の知れないものを分析することもあり

ます。

分析試験の計画を立てたり、計画がっているかのチェックも行います。

——この仕事に決めたきっかけはありますか？

白衣を着る仕事がしたかったというのがありますが（笑）、私の好きな手を動かし分析する仕事をしたいと思っていました。就職活動を始めた頃は正直全然考えていなかった業界ですが、キャリア支援で見つけ、こういう業界もあるんだ、と初めて知りました。



1日のタイムスケジュール

8:30	出勤
9:00	課のミーティング(試験内容についてなど)
10:00	培養物のチェックと微生物試験
12:00	昼休み
13:00	微生物試験(遺伝子検査)
15:00	培養物のチェック
17:00	機器の点検
18:00	事務仕事
19:00	退勤

——最後に、在学生にメッセージをお願いします！

学生のうちに何か一つでも熱中するという経験をしておくと思いいます。その経験が社会人になったときに自信になったり、支えになることもあります。そして自由な時間がたくさんあるうちに、興味のあることにどんどん挑戦してほしいです。

——本日はありがとうございました！

高橋 菜摘 (Natsumi TAKAHASHI)

2016年3月日本獣医生命科学大学
応用生命科学部動物科学科を卒業
同年4月より一般財団法人日本食品分析センターに勤め、現在に至る

人々の健康と安全を守る、それが私の使命。

一般財団法人日本食品分析センター 高橋 菜摘



北村 知也 (Tomoya KITAMURA)

2007年3月日本獣医生命科学大学
獣医学部獣医学科を卒業
同年4月より東京都農業共済組合の獣医師として勤め、現在に至る

——北村先生は2007年3月に本学獣医学科をご卒業されています。所属研究室や部活動について教えてください。

在学中は軟式庭球部に所属し、今はなき学内のクレートコートで体力づくりに励んでいました。

3年次からは獣医公衆衛生学研究室に所属し、本藤先生、植田先生、落合先生、小林先生の下、ウイルスや細菌、重金属等、広範囲にわたって指導していただきました。

——学生時代、特に思い出深かったことや苦労したことはなんですか？

入学時、軟式庭球部は4部に所属していて、6月の団体戦では4部の4位という結果でした。みんな悔しくて1位になって上部に行きたいという気持ちが強くなり、同期の5人と先輩7人で夏休みに朝7時から夜7時までテニス漬けの特訓をしました。その結果、次の団体戦では2位になり、3年の時には念願の3部に昇格、5年の時には2部にも昇格し、ダブルスでは4位になったことです。

ありきたりですが、同じ目標に向かって皆で努力することや小さな事の積み重ねが本当に大切だと感じました。

——在学中は部活動に励まれていたんですね！現在、先生は産業動物獣医師として勤務されていますが、そのきっかけはなんだったのでしょうか？

1年の夏に北海道へ酪農実習に行き、生まれて初めて生乳の生産現場を目の当たり

にしました。そこで農家の方々の並々ならぬ苦労や努力を肌で感じたことがきっかけです。その時、牛乳の生産現場を獣医師として支援したいと考え始めるようになりました。

——東京都農業共済組合での仕事内容を簡単に教えていただけますか？

都内の酪農家及び肉牛農家の繁殖検診及び巡回指導や、家畜共済事業の運営を行っています。

——仕事で大変だったことや、その中で今後の励みとなったエピソードがあれば教えてください。

大変だったことは、正月早々の北風吹く真冬の寒さの中、農家さんの庭先で子畜捻転で帝王切開したときです。先輩の先生方と一緒に手術し、子牛は無事に出生、母体も何とか助かったので手術の甲斐はありましたが、あの寒さは本当にしんどかったです（笑）

産業動物は基本牛舎や庭先で手術となるので、冬の寒さは特にこたえますね。ヒー○テック最高！（笑）

——考えただけで寒そうです（笑）産業動物獣医師は体力も必要ですね。最後に、在学生へメッセージをお願いします。

将来に活かせるようなことだけでなく、いやな事や失敗、

農家の方々と
生産現場をつくり、支える。

東京都農業共済組合 産業動物獣医師
北村 知也

後悔も含めて在学中に人生を豊かにする経験をたくさん積んでください。きっと無駄にはなりません。そして、人間万事塞翁が馬、小さなことで一喜一憂せずに、常に前を向いて明るく元気に笑顔を忘れないでください。笑顔の力は偉大です！！

——本日はお忙しい中、ありがとうございました！



▲超音波画像診断装置を用いた直腸検査にて、妊娠診断を行っている様子

1日のタイムスケジュール

8:00	出勤
8:30	嘱託の先生とスケジュール確認
9:00	事務所出発
10:00	1件目の繁殖検診
11:00	2件目の繁殖検診
13:00	3件目の繁殖検診
14:00	手術(主に第四胃変位)がある場合はこの時間から行う
16:00	事務所到着
	事務処理、雑務等
18:30	退勤

教育現場から

富士アニマルファーム
実習を語ってみた

座

談

会

座談会参加メンバー

獣医学科4年次 井上拓馬さん
獣医学科5年次 小山 朔さん
獣医学科5年次 安川美弥さん
獣医保健看護学科1年次 渡邊和希さん
動物科学科2年次 阿部百花さん

動物科学科2年次 有馬杏樹さん
動物科学科2年次 伊藤由莉奈さん
動物科学科2年次 井上梨奈さん
動物科学科2年次 岩崎真由さん
動物科学科2年次 亀山 翼さん
動物科学科2年次 濱野 廉さん
(計11名)

富士アニマルファームの
4つの指針
教育・研究・生産
そして社会貢献

学びを定着させ、
畜産界の常識は
答えられるように
なりたい!

つなぎの下に着るジャージやTシャツを多く持っていくことがオススメ!



ご参加くださった皆さん、
ありがとうございました!

各学科の教育プログラムには、付属牧場(富士アニマルファーム)での実習が組み込まれています。今回はそんな富士アニマルファームの実習についてお話を聞き、どんな実習が行われているのか、学科の違い、学生の過ごし方、あれやこれや聞いてみました!

座学では体験できないことがいっぱい!

阿部 富士アニマルファームは山梨県にあるということもあって、東京と違って水がおいしかったです。

有馬 自然豊かな山奥に位置しているので、虫がたくさんいました(笑) 個人的には嬉しかったです!

小山 富士アニマルファームではホルスタイン、ジャージー、ブラウン・スイス、エアシャー、ガンジーの5種を搾乳していますが、その牛乳の飲み比べをしました。手間がかかっている牛たちの牛乳を飲むという体験はなかなかできないので、とても貴重でした。

ここが違う! アニマルファームのいいところ。

濱野 他の牧場と比べ富士アニマルファームは動物種が多く、実際に見て比べることができてよかったです。

伊藤 私も個人的に肉牛牧場に実習に行きました。やはり他の牧場と比べ富士アニマルファームは手作業が多く細かいところまで行き届いていると思います。

渡邊 「人が動物たちにあわせる」。吉村牧場長の言葉どおり、朝は日が昇る前、暗いうちから作業が始まり、大変な分だけ動物たちと真剣に向き合える、とても有意義な時間を過ごすことができました。動物たちも身をもって多くのことを教えてくれました。スタッフの方が牛1頭1頭の名前を憶えていて、コミュニケーションを取っていたのがすごく印象的でした。

生命のぬくもりと 獣医保健看護学科限定魅惑のアイス作り

渡邊 入学して初めて行う実習で、生命のぬくもりや、看護学に大切な動物の扱いの基本のキを教わることができました。アイス作りやバーベキューなどもあったので、同期だけでなく、先生方と仲を深める良い機会となりました。

Memo

獣医保健看護学科1年次
「動物看護体験実習」(2泊3日)
実習レポートはこちら「継・いのち」No.192→



さす産業動物臨床学研究室。 結構アニマルファームに通っています!!

安川 必修では6年間の中で2回しか行く機会がなく、産業動物となかなか触れ合える機会がありません。もう少し大学の近くにあったらいいと思います。

井上(拓) 私たちの研究室では、富士アニマルファームを利用して牛の研究を行うため、頻繁に通っています。興味のある方はぜひ見学に来てください!!

Memo

産業動物臨床学研究室の手術実習
安川さん、小山さん、井上さんの実習レポート
はこちら「継・いのち」No.200→



女子部屋はぎゅうぎゅう?! でも朝、4時起きダモン隙間があったら寝る

亀山 基本的な畜産技術を身につけることができました。私は1年次に学外で農場実習の経験がなく、3年次の牧場実習の準備として今回参加しました。

岩崎 実習に参加した人数が多く、8人部屋を11人で使用しました。布団と布団の隙間に寝る人出てきて、とにかくぎゅうぎゅうでした!(笑)

井上(梨) 皆ちちょっとでも隙間時間があれば寝ていました。朝早いのがきつかったです(笑) 意識がなかったこともしばしば...

亀山・濱野 男子部屋は日中寝てて夜起きていましたよ(笑) 皆が起きだした頃に寝て、実習が始まる前に起きる人が多かったです!

Memo

動物科学科2年次「農場実習」(3泊4日)
3年次「牧場実習」(15日間)の前にぜひ経験しておきたい実習。
搾乳や直腸検査などの日常の牧場作業、心音聴診等についても実際に行い、家畜や飼養管理への理解を深める実習です。



↑実習レポート
はこちら

番外編 個人実習に行ってきました

南アフリカの実習に参加した獣医学科5年次 上玉利成美さんに話を伺いました!

——この実習に参加しようと思ったきっかけは何ですか?

様々な動物種を診られる獣医師になりたいと考えており、エキゾチックアニマル、野生動物などに関わるプログラムで、見学だけで終わらない実習を探していました。海外実習には2年生の頃から行っていました。今回は場所とこだわっていたわけではなく、たまたま魅力的なプログラムが南アフリカで行われていました。

——どうやって見つけたのですか?

インターネットから探しました。まずは簡単な履歴書と動機を提出し、参加が決まってから飛行機の手配と予防接種などの準備を進めました。同じグループのメンバーとは初対面になるので、アプリで事前にコンタクトを取りました。

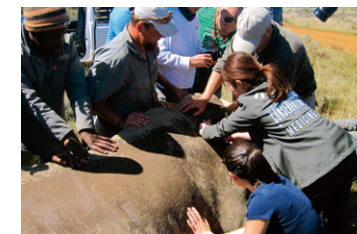
——ちなみに、費用はおいくらぐらいだったのでしょうか?(笑)

プログラム代(宿泊費含む)は約38万円、それに加えて飛行機代などです。

——最も印象深い実習プログラムを教えてください。

シロサイの麻酔下でのモニタリングです。予防

注射、呼吸、心拍のモニタリングを行いました。サイの皮膚は想像以上に厚みがあり、大学での実習とは全く違いました。



▲シロサイの皮下注射の様子

——他国の学生はどうでしたか?

ユーロ圏の学生が多く、日本人が参加するのは私が初めてだったそうです! ですがメンバーは日本に好感を持ってくれており、皆フレンドリーで安心しました。今でもメンバーとは連絡を取り合っています。

——ご自身の夢を教えてください。

様々な動物を診られる獣医師になることです。

海外で得た知識や技術を、日本のエキゾチックアニマルや動物園動物の獣医療に活かせればと思います。努力も才能も(費用と運も)必要な分野ではありますが、卒業後は海外のインターンやレジデントなどで経験を積み、どんな動物でも臨機応変に対処できる獣医師になりたいです。

——ありがとうございました!

上玉利さんの詳しい実習レポート
はこちら→



▲アフリカペンギンの血液塗抹



2018年11月2～4日の3日間、武蔵境キャンパスにて行われた医獣祭。日本医科大学との合同開催となって早3回目を迎えました。思いっきり楽しんだ方も、残念ながら参加できなかった方も、ぜひこれを読んで参加した気分になってください！それではいってみましょう！

第3回医獣祭

医食獣～みんなおいでよ医獣の森～

私たちが
レポートします！



獣医外科学
研究室

最初に目を引いたのは、術衣を着て焼きそばを作る謎の集団…ではなく獣医外科学研究部の皆さん。術衣を着て焼きそばを売るのが研究部の伝統だそう！元気のよい掛け声と一風変わった(?)作り方を見れば来年ぜひ！

獣医臨床繁殖学
研究室

最近人気のカワウソ。「その生態を知っている人って少ないのでは？」という考えから、なんと夏休み頃から医獣祭のために調査を始めたそう。動物園にも足を運び、実際に話を聞いて今回の展示を制作したとのこと。まだまだカワウソ旋風は続きそうです！



準硬式野球部

ひたすら元気な準硬式野球部の皆さん。くじで“ホームラン”が出たらからあげ棒1本無料という太っ腹な企画をやっていました！「お客さまが楽しめればそれでいい」と語っていたのは部長の及能(キウノ)さん。去年からくじをやっているそうです。おもてなし精神に溢れていますね。

洋弓部

なかなかアーチェリーを体験する機会ってそうそうないですね。洋弓部の射的では、ホンモノのアーチェリーの道具をつけて体験できちゃいます！しかも1回3本打てて、50円という破格のお値段！得点に応じて豪華景品も用意されていました。



動物栄養学教室

島根県産黒毛和牛の牛串を売るのが伝統だという動物栄養学教室。美味しい黒毛和牛が良心的なお値段でいただけちゃいます！



カントリー

とにかく、すごい一言。展示してあった羽根、はく製、鳥類の本はほとんどが部員の私物。バードウォッチングを楽しむサークルとのことで、「もっと身近に鳥を感じてほしい！」という想いから2011年から展示をしているそうです。毎年好きな鳥類の模型を作るのが伝統らしく、たくさんの可愛い鳥たちがお見送りしてくれました。



獣医寄生虫学
研究室

寄生虫に触れるとの噂を聞きやってきました！寄生虫に親しみをもってほしいという願いから、寄生虫に触れるだけでなくオリジナルグッズも販売している研究部の皆さん。寄生虫愛に溢れた展示でした。



???

おや？メインステージとアリーナが見えてきました！他にも魅力的な模擬店や展示がたくさんでしたが、ステージを覗いてみましょう！





ANIMAto

昨年から活動を開始したアカペラサークル。部長の窪田さんは15年ほどアカペラをやっており、「もっとアカペラを広めたい!」という想いから立ち上げたそうです。サークル名の「ANIMAto(あにまーと)」とは、音楽用語で「イキイキと」という意味だと教えてくださいました。サークル名の通り、秋晴れの空に素敵な歌声が響き渡っていました♪



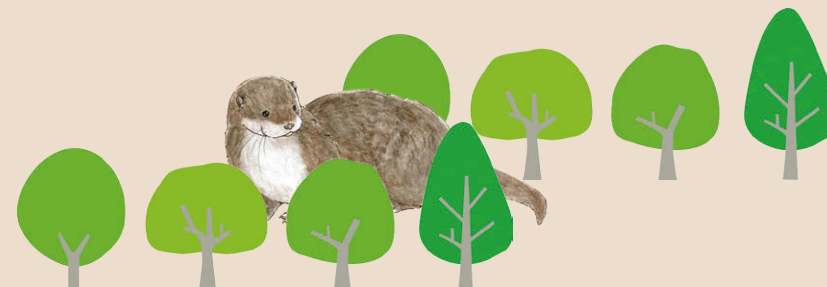
女装・男装 コンテスト

怖いもの見たさってありますよね。かっこいい男装女子と、かわいい(?)女装男子が集った女装・男装コンテスト。ペア競技やパフォーマンスなどの審査を行い、たくさんのエントリーの中から優勝に各部門4名が選ばれました! 来年はどんな男装女子、女装男子が見られるのでしょうか!?



ペットショー

最終日には、ケネルクラブ主催の第50回ペットショーが開催されました! 「ヒトより犬の方が多いのでは! ?」というくらい、たくさんのワンちゃんたちと愛犬家のみなさんが集まっていました。なんとご近所の方だけでなく、県外からもいらっしゃっているそう。ペットショーの内容は、愛犬紹介とお仕事犬紹介ということで、今年のお仕事犬は「警察犬」。そんなところに、片岡先生を発見しました。片岡先生の愛犬コマチちゃん(写真左)の隣に写っているのはスフレくん(写真右)。5歳で七五三ということで、おめかししてきました。おめでとうございます!



牛乳早飲み

医獣祭らしい企画がやってきました! 牛乳は1本180ml。親子部門、個人部門、団体部門の3部門がありました。腰から手を離したらペナルティ! 飲み残しもダメ! という厳しい(?)ルールのもと、盛り上がっていましたよ!



HIPPO

アリーナに入ると、ものすごい熱気と響き渡る歓声が。満員の会場では、お客さんも最高潮に盛り上がっています。HIPPOは部員総勢65名からなるダンスサークル。その65名をまとめる動物科学科2年の亀山翼さんは「ここ2~3年で部員数が増えたので、大人数だからこそ魅せられるパフォーマンスを!」と熱く語ってくれました。今年のクリスマスに、初の試みとしてアリーナでショーをやるそうですよ! 気になった方はクリスマスの予定を空けておいてくださいね!



馬術部

ちょっと離れていますが、第二校舎では馬術部による親と子の乗馬教室が開かれていました。乗馬体験は先着順で、すでに早い段階で受付終了となってしまった回もあったそうです。馬と触れ合えるだけでなく、富士アニマルファームの馬の毛を使用して作ったストラップや飾りづけした蹄鉄なども販売しており、馬を身近に感じることができました!



いかがでしたか? 全部の団体の紹介ができなかったのが残念ですが、今年の医獣祭も大盛り上がりでした。来年の医獣祭も今から楽しみです! そして来年の突撃レポートもお楽しみに!! 実行委員長 目線のレポートはこちら→





9月、IR推進委員会では卒業生を対象に「ニチジュウ卒業アンケート」を行いました。卒業生から自身の学生時代を振り返りつつ、「在学学生へのアドバイス」を記載いただきましたので、一部を紹介します。

学業もアルバイトも誠意を持って、やる事はしっかりやりましょう。**自分自身と向き合って**、やりたいことに力を注いでください。普通に過ごしていたら、就職は不安に思う必要は無いと思います。適性がない職種に応募すると、難しいとは思いますが。何とかできるので、将来を不安視しすぎるのではなく、今を楽しんでほしいです。私は不安だらけだったので、楽しむ力も大切かなと思いました。渦中にいると分からないのですが。

しっかり遊んでしっかり学ぶ

たくさん時間があるうちに、将来何がしたいのかを考えて、**未来の自分への投資**に使うという選択肢もなかなか良いと思います。もちろん、たくさん遊んで色んな経験もしてください、後の自分の中の宝になります。

この大学では研究室での活動がメインになりがちですが、やはり**積極的に学外へ**出たほうが良いと思います。卒業してからは専門に属した仕事に就く人が多いと思います。就職後の為に実習や講義で知識を深めることは大切ですが、知識と社会性を広げる為にも、大学以外の時間として自分の専門外のアルバイトでも遊びでも、学生のうちにしか出来ないことを大いにやるべきだと感じます。

やりたいことを 何事にも全力で。体は大切に。



現状で自身が勉強、研究している事柄だけでなく、興味のあることは情報を集めておくべき。企業就職を考えている人は、**世界の情勢について目を向けて**おくとうい。

今しかできないことをやってほしい

まだよく分からない・出来ないからやらないのではなく、**未完成の今だからこそ許され、挑戦出来ることは沢山ある**と思います。学生という身分を最大限に活用して有意義な学生生活を送ってください。



悔いのない 学生生活を！

様々な年齢の人とコミュニケーションを取り、知見を増やしてください。欲を言えば**人脈を広げて**ください。

目的意識を持って学んでください

就職は周りの意見に流されず、自分の強い意思で決めてほしい。先生の意見が必ずしも正しいとは限らない。わからなかったら、実際に自分の目で見て体験すること。実習は必ず行くべき。また、実習が全てではないことも確か（楽しくない業務をわざわざ実習生には見せない）。後悔しないためにも、じっくり時間をかけてより良い選択をしてください。**頑張れ!!**

見つけてください 色々な経験をするなら学生のうち。



ニチジュウ卒業アンケート × 学生アンケート

■「ニチジュウ卒業アンケート2018」
(調査日) 2018年9月7日(金)～9月25日(火)
(対象) 2017年度卒業生のうち、卒業後にアンケートに協力すると回答した卒業生
(実施方法) Webフォーム
(調査目的)
・大学における教育内容やサービスの改善のため
・教育目標の見直しのため
・在学学生が自分の進路を考えるための参考資料等に活用するため
・卒業生の活躍を定期的に調査することで大学と卒業生との関係を構築するため

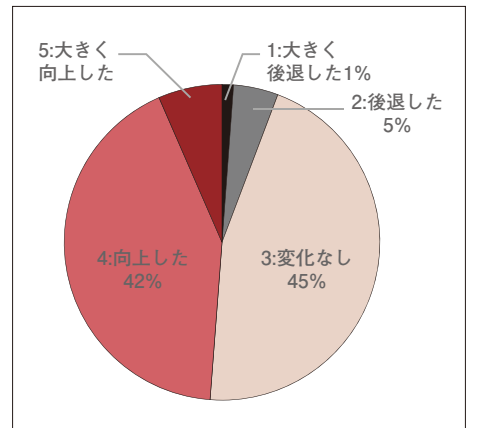
卒業生が重要だと思う能力 Best3 (卒業までに身につけたい力・事項)

(「ニチジュウ卒業アンケート2018」結果より)

- 1位 コミュニケーション能力
- 2位 英語力
- 3位 表現力(説明する力、伝える力)

その他の意見として、「気力」「判断力」「学ぶ習慣」など様々な社会人として必要な能力を記載いただきました。卒業生の皆様ありがとうございました。

コミュニケーション能力について、在学生に聞きました。



入学後のコミュニケーション能力の変化について

(学生アンケート結果2018より)

- | | | | |
|------------|-------|------------|-------|
| 1: 大きく後退した | 1.2% | 4: 向上した | 41.6% |
| 2: 後退した | 4.5% | 5: 大きく向上した | 6.4% |
| 3: 変化なし | 44.8% | | |

■「学生アンケート2018」
(調査日) 2018年9月20日(木)後期カリキュラムガイダンス内で実施
(対象) 全学部学生/大学院学生
(実施方法) マークシート

学部学生1,737名中、1,551名(89.3%)の皆様から回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

Note

◆IR インスティテューショナル・リサーチ (Institutional Research) とは教育改善や経営改善、自己点検評価等の目的に沿ってデータを集積・分析し、意思決定に不可欠な戦略立案を支援します。

例えば、教育の質のためのデータは学生の学修時間、授業アンケート結果、資格取得等の実績等のデータがあります。今回掲載している卒業生へのアンケートや、在学生へのアンケートもそのデータの一部です。これらのデータから実態や課題等、様々なニチジュウの姿をお伝えします。

大学ホームページ「データで読み解くニチジュウ」はこちらから ▶



1 年次学生対象「人権教育ワークショップ」を開催しました



関連記事

ニュース「(教職員対象の) ハラスメント防止研修会が開催されました」



【学生代表×自己評価委員会】 3つのポリシーを踏まえた適切性の点検・評価を実施しました

9月20日(木)、本学の教育研究水準の向上を図り、目的及び社会的使命を達成するための自己点検及び評価を行う自己評価委員会(委員長：近江教授)と学生の代表として選出された学生代表者4名と卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)及び入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーを踏まえた適切性の点検・評価を行いました。

- Ⅰ. 学生の受入れ(入学者選抜)
- Ⅱ. 教育課程(カリキュラムの内容・学修方法・学修支援又は学修成果)
- Ⅲ. 教員組織
- Ⅳ. 学修環境の整備(施設・設備)
- Ⅴ. その他(社会貢献等)

以上、5つの視点から学生の率直な意見を聞くことができました。今後の教育課程の改善に生かします。
(学長室・企画調査課)



動物慰霊祭を挙行了しました



日時 10月31日(水)12時30分
場所 本学『仁畜之碑』前
備考 無宗教献花方式
「動物慰霊祭を良き契機とし志を高く持ち、精進する気持ちを新たにすることで、動物の慰霊と報思にかえたい」と学友会長が学生を代表して述べてくれました。
(庶務課)

日本医科大学・日本獣医生命科学大学体育祭を開催しました



関連記事

体育祭実行委員会委員長の学生レポート



付属動物医療センター放射線治療室に新装置（リニアック）を設置しました



関連記事

4月から開始した新装置設置工事の工程を記載したレポート



10月10日(水)、武蔵野陸上競技場において平成30年度日本医科大学・日本獣医生命科学大学体育祭を開催しました。日本医科大学との合同開催となって2回目の今年。荒れた天候が続いていましたが、それまでが嘘のような晴天の汗ばむ陽気となりました。

阿久澤学長、野村基礎科学主任(日本医科大学)の挨拶の後、選手宣誓や準備体操をしっかりと行い、それぞれの団体にちなんだ思いの服装に身を包んだ出場者たちはリレーや綱引きなどを楽しみました。

白熱した戦いは午後まで続き、大きなトラブルやケガもなく、大盛り上がりで幕を閉じました。
(学生支援課)

第24回 普通救命講習会「あなたはAED使えますか？」を開催しました

11月23日(金・祝)午後、本学にも設置されているAEDの使用方法を含めた第1次救急処置の講習会を開催しました。受講すると救命技能認定証が交付され、履歴書への記載も可能です。

この講習会は年2回(前期:6月、後期:11月)保健センターが主催し、東京防災救急協会や武蔵野消防署から講師を招いて実施しています。体育会や教職課程履修者に特に受講を推奨しており、今回は2名の学生、2名の事務職員が参加しました。講習は講義と実技を交互に行い、応急手当の重要性や止血法、胸骨圧迫・人工呼吸及びAEDの使用方法を学びました。

【受講生の感想の一部を紹介します。】

・運転免許証取得以来の講習でした。定期的に学び直し、忘れないようにしたいと思います。
・講習を受けると受けないのでは、人命救助に対する意識が違ってくる。人の命を救うための知識や技術を学ぶことができて良かった。

※受講費用(1,400円)は大学で負担するため無料(保健センター)



関連記事

ニュース「東京消防庁武蔵野消防署長より、感謝状を授与されました」



新任教員紹介

10月より本学に着任した2名をご紹介します

——まずはじめに自己紹介をお願いします。

岩手大学農学部獣医学科を卒業後、日本全薬工業株式会社中央研究所において、主に動物用医薬品の研究・開発業務を行ってきました。実験小動物、犬、牛等を使用して新規動物用医薬品の毒性・安全性の評価、疾病モデルを用いた薬効・薬理評価試験、臨床試験の計画・調整等、幅広い仕事をしてきました。その間に、社会人大学生として博士号を取得しました。近年は牛用の動物用医療機器と牛用の新規輸液剤の開発を担当し、農林水産省に申請しましたので、発売されるのを心待ちにしています。

——働きながら博士号を取得されたんですね！

経費は自前でしたが、岩手大学で指導を受けるため定期的に通っていたので有給休暇が不足してしまい（笑）、会社から特別休暇をいただいて研究を行いました。仕事と研究の両立は大変でしたが、指導教官はもちろんのこと、会社の理解と家族の協力で何とか卒業できました。



松田 寛子 (Hiroko MATSUDA)

東京都生まれ、高校まで福島県裏磐梯で過ごす。千葉大学大学院卒業後、理化学研究所、東京海洋大学大学院特任助教などを経て現在に至る。

研究者情報はこちら→



**応用生命科学部 食品科学科
農産食品学教室 講師 松田 寛子**

——まずはじめに自己紹介をお願いします。

松田寛子と申します。江戸っ子の両親が、大自然の中で子育てをしたいという思いから、裏磐梯へ移住したそうです。裏磐梯のおいしい水と野菜や果物のおかげで、普段食するものに対する関心が深まり、中学卒業後から科学の世界にどっぷりとはまっていました。

学生時代は東京海洋大学や千葉大学にて、調理科学や食品栄養学に関する研究スキルを習得しました。

その後、理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター（現・多細胞システム形



味戸 忠春 (Tadaharu AJITO)

岩手大学農学部獣医学科を卒業後、日本全薬工業株式会で動物用医薬品の研究・開発業務を行う。その傍ら岐阜大学大学院にて博士号を取得し、現在に至る。

研究者情報はこちら→



**獣医学部 獣医学科
産業動物臨床学研究室 准教授 味戸 忠春**

——研究室ではどのようにお過ごしですか？

学生9名、教員3名で活動しています。毎週1回は富士アニマルファームに出向いて、泌乳牛の繁殖管理や病畜の治療を行っており活気があります。また、東京都農業共済組合の先生方と酪農家さんの定期検診を実施しています。できれば、研究室の学生が日常的に産業動物に触れる機会を増やしたいです。

——富士アニマルファームはどうですか？

天気が変わりやすく雷雨と雹の洗礼を受けました。吉村牧場長をはじめ、牧場スタッフにお世話になりながら活動を始めたところ

です。

——最後に今後の意気込みをお願いします。

いままでは社会人として入社してきた新人獣医師の指導を行ってきましたが、今後は獣医師の卵の学生を指導・教育することになります。いままでより基礎と理論を重視して、より分かりやすく丁寧な授業や研究指導を心がけていきたいと思います。水谷先生の得意とする代謝プロファイルテスト、そして三浦先生の得意とする繁殖分野とコラボした仕事をしたいと案を練っています。

——所属されている研究室ではどのようにお過ごしですか？

今現在は、実験系の立ち上げのために実験する時間が増えました。また、広報活動をお手伝いしたり、授業準備もしています。研究室は綺麗に維持してくれているので、とても居心地がよいです。

——今後の意気込みをお願いします。

前職も主に農産食品を対象に研究を遂行してきましたが、本学では奈良井先生のお力添えも頂戴し、さらに研究を発展できそうです。「農産食品の研究に関しては、日本獣医生命科学大学の農産食品学教室に聞こう！」と他の研究者の方や非研究者の方々に思っていただけるよう、皆さんが普段疑問に感じていることをドシドシ解決していきたいと思います。

——最後になりましたが、在学生の皆さんへのメッセージをお願いします。

「You are what you eat」（自分の体は、自分が食べたものでできている）という認識はとても重要だと思います。食は命に直結します。自分の命を大切にするとつもので、普段の食生活も大事にしてください（偏った食生活は避けてほしい…）。食生活やお料理のご相談、大歓迎です！そして、農産食品学教室はこれからドンドン盛り上がるはず。一緒に研究したいと思った学生の見学も大歓迎です！

編集後記

「つなぐ架け橋へ」表紙に掲げた第64号のコンセプト。新しく生まれ変わる大学報が、学生や同窓生、保護者の皆様、そして教職員をつなぐ架け橋になればという想いで、ミッション・ステートメント「Connect with the Future ～動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぐ、獣医・生命科学の情報発信拠点～」とプロジェクトマークから設定しました。

この大学報「Hello, we are NVLU」は教職協働にて、編集小委員会の委員と学長室・企画調査課員が、学生や教職員の協力も得て、自分たちで知りたいこと、興味があることを取材し記事にすることから始めました。まだまだ素人感が強く荒削りかもしれませんが、読者の皆様からご指導、ご意見、ご感想を賜りながら、成長してまいりたいと思います。

【次号予告】

次号は2019年4月末に発行を予定しております。

テーマは「研究」です。2018年度から開始された「日本獣医生命科学大学特色ある研究プロジェクト」を中心にお知らせいたします。

■ご意見・ご感想・取材依頼募集

大学報に対するご意見・ご感想をお知らせください。また、ニチジュウベストショットへの掲載や「私たちこんな活動しているよ！」等の情報をお待ちしております。

担当事務：学長室・企画調査課
ir-nvlu1@nvlu.ac.jp

■大学ホームページへの掲載

大学ホームページから、大学報「Hello, we are NVLU」をPDFで配信します。



Hello, we are NVLU (ニチジュウ)
—日本獣医生命科学大学報—
第64号 (2018年12月号)

2018年12月17日発行

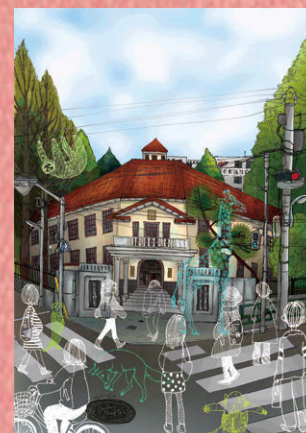
(以下敬称略)
協力／学生：黒田 祥 高木慎介 諏訪ひなの 井上拓馬 小山 朔 安川美弥 渡邊和希 阿部百花 有馬杏樹 伊藤由莉奈 井上梨奈 岩崎真由 亀山 翼 濱野 廉 青島純奈
日獣祭実行委員会
卒業生：高橋菜摘（一般財団法人日本食品分析センター） 北村知也（東京都農業共済組合）
教職員：阿久澤良造 羽山伸一 味戸忠春 松田寛子
Special Thanks：渡邊直哉
その他協力いただいた方々ありがとうございました。

表紙／A.S.
イラスト／秋保優佳 (P.14-17)

編集・発行／日本獣医生命科学大学
IR推進委員会
(編集委員)
羽山伸一 近江俊徳 野瀬 出 高橋 勝 大沼友美 服部沙由花 上野美可子

印刷／ライオン企画株式会社

Vol.64 表紙絵 獣医保健看護学科1年次 A.S. さん



「Hello, we are NVLU」。1番最初に出会うのはあのレトロな建物で、赤とクリーム色を基調とした建物に退紅(あらぞめ)色の窓枠、ちょこんと上に乗った小さな塔…どこか外国の建物のような、でも大正ロマンを感じさせるようなあの建物。古くからあるこれは日獣大(あるいは獣畜大)のシンボルで、この建物が「Hello」に最もふさわしい所だと考えました。シンボルと言えは中央線から見える白い建物…B棟やE棟も描きたいなと思い、実際には正面からは見えませんが後方にちらりと覗かせてみました。

温かみやその場所の雰囲気が出れば良いなと思い、建物や木、周りにある信号機や電柱、電線なども出来るだけ本物そっくりに描くようにしました。

また、背景と調和するように線で学生と動物を描き入れました。学生にはこっそり私も混じっています(笑)。マンホールを獲物や穴に見立ててキツネに飛び込ませてみたり、コアリクイは威嚇のポーズが交通整理みたいで可愛い、ミーアキャットも横断させてみよう…などなど、遊び心いっぱい描きました。見た人が楽しんで、細かいところもたくさん見てくれたら嬉しいです。

nichistagram

#ニチジュウベストショット

Related Hashtags : #ご投稿くださった皆さま #ありがとうございます #次回もまた #投稿してね



ysmr_animalfarm



#動物慰霊祭 #20181031



baseball_55243



#準硬式野球部 #体育祭



heisei_saigono_nvlu



#HIPPO #医獣祭



ir-nvlu1



#次号は #研究について
#お伝えします！